

鹿児島医セン

連携室だより

2008.11 No.32

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

循環器病看護エキスパートナース研修について

今年も九州ブロック事務所主催の循環器病看護エキスパートナース研修が、10月20日～31日の2週間、当院で開催されました。九州ブロック内の循環器病急性期患者を受け入れている施設に勤務する看護師11名が参加しました。私は、研修を担当し3年目となります。研修生の感想や意見を参考に毎年研修内容を検討していますが、昨年より研修期間が2週間になりました。1週目は講義、2週目は実習で、それぞれを1クールとし、研修生の希望でクールの選択もできます。研修終了後は、ブロックより修了証書が発行されます。

研修の内容は、1週目を循環器内科・心臓血管外科・心臓リハビリテーション科の医師や看護師長・副看護師長・認定看護師、薬剤師や栄養士による循環器疾患の病態生理・検査、治療、看護、服薬・栄養指導に関する専門的な講義です。各講師の方々のご協力により、最新の医療を取り入れた講義内容で、研修生も刺激・感銘を受けていたようです。オープン講義とし、当院の看護師も参加させて頂いています。また、「危機的状況にある患者の看護について」のグループワークでは、活発な意見交換が行われました。

2週目は、循環器病棟・手術室・集中治療室・心臓カテーテル室の実習でした。実習の目的・目標に沿った詳細な計画のもと実習が行えました。

手術室では、麻酔科医師や臨床工学士による具体的な説明も行われました。リハビリテーション室では、実際に心臓リハビリテーション運動内容を体験も出来たようです。循環器疾患患者様を看護師と共に受け持ち、実習を行うことで、講義で得た知識の再確認ができ、自施設との違いや新たな発見の機会となったようです。循環器病看護エキスパートナース研修を終えた看護師として、研修で得た知識を自分の施設に帰りどのように活動していこうか考えているとのことでした。

県外から参加している研修生は、週末に「篤姫」ブームにある鹿児島の歴史探索や観光を楽しまれました。



当院は機構の循環器基幹医療施設です。高度先駆的医療の提供や専門性の高い医療を提供する役割を担った病院として、今後も積極的に研修生を受け入れ、共に研鑽していきたいと思っております。（東2階病棟師長 米森篤子）

感染管理認定看護師として

私が感染管理認定看護師になって5年が過ぎました。はじめての認定更新審査を9月に終え、ホッと一息ついているところです。感染管理認定看護師は2008年9月現在、全国に769名、うち鹿児島では8名がそれぞれの施設で活動しています。

ご存知の方も多いと思いますが、感染管理認定看護師の役割は、病院内の各部門における感染症発生を監視し、感染対策活動を客観的に調査・把握し、各部門の連絡や調整などを行うことです。具体的な役割は、①感染管理のための方針を明確にして活動計画を立案・実践・評価・更新する。②院内感染サーベイランスを計画し実践する。③疫学的に効果が認められた感染防止技術を理解し、効果的な感染防止対策を立案・導入・評価・改訂する。④病院に関わる人々に対して感染管理活動を行う。⑤患者さまの安全な療養環境を確保するためのファシリティー・マネージメントを推進する。⑥病院内における感染管理教育を実施する。⑦感染管理コンサルテーションを実施する。の7項目です。病院で過ごされる患者さまはもちろん、患者さまを支えるご家族や病院職員、委託業者など病院内のすべての人々を感染から守り、拡大させないことを目的に活動をしています。

しかし、感染管理活動は感染管理認定看護師一人ではできないのではなく、病院全体として行うものです。当院でも2005年11月から医師・看護師・検査技師・薬剤師・栄養士・事務職員など他職種で構成される感染対策チーム(ICT)が活動を開始し、私もその一員として活動をしています。また、副看護師長やリンクナースとともに各病棟での感染対策の実践に取り組んでいます。今年の6月からは専任として活動をはじめました。病棟をラウンドしては、ゴミの分別状況をチェックしたり



スタッフの手指衛生の状況をチェックしています。そのうち、私の姿を見かけたら、嫌な顔をされるのではないかと思います。ラウンドが感染対策への意識向上につながって行くことができれば良いと考えています。「急がず焦らず、ゆっくり1歩1歩確実に前に進もう」が私のモットーです。今後も、これを確実に感染対策を実践し、予防できるように活動して行くことが、私の課題と考えています。

新たな感染症の出現など、感染対策の重要性が増してきています。確実な感染対策を実践していけるように今後も、自己研鑽に励みたいと思います。感染対策を行って行く上でお悩みなどございましたら、お気軽にご相談下さい。(感染管理認定看護師 吉満桂子)

登録医医療機関紹介 第17回

うちむら脳神経外科クリニック

当クリニックは2005年8月に開業した脳神経外科の無床診療所です。場所は下伊敷、国道3号線沿いでケンタッキーフライドチキンの真向かいにあります。

診療の中心は脳卒中予防と頭痛診療です。脳卒中予防といっても、そのほとんどは生活習慣病のコントロールですので「用事のために歩きなさい。腹八分にしなさい。」などダイエット教室の先生のような毎日です。また、検査では異常のない、いわゆる頭痛持ちの頭痛をどうマネージするかが、もうひとつの仕事です。



例えば片頭痛の場合、誘因となる生理と寝不足が重ならないように、またズキズキ痛みだしたらすぐに薬を飲むようになど、日常生活上の注意や服薬の指導をしています。

こういった平穏な日常診療の中に、時々見逃してはならない患者さんが来られます。ちょっと呂律が回りにくい、足を引きずるといった軽い症状で発症した脳梗塞や、いつもと違う頭痛が続くと歩いて来られるくも膜下出血などの症例です。こういうときによく医療センターにはお世話になっています。その度に快く紹介を引き受けていただき、本当に感謝しています。私が1998年6月から2002年8月まで脳神経外科医長として在籍させていただいた関係で、顔見知りのドクターやコメディカルの方が今でも多くいらっしゃるのも心強い限りです。

こうしてご紹介した患者さんが、無事退院されて「医療センターに紹介していただき有り難うございました。スタッフの方々には非常に良くしてもらいました。」などと挨拶に来られます。医療センターにお願いして良かった、またOBとして誇りに感じる瞬間です。

最後になりましたが、これからも地域住民と医療センターを結ぶ架け橋でありたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

(院長 内村 公一)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催のご案内

鹿児島市医療圏のがん診療連携拠点病院として鹿児島市地域のがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修を行うことを目的に上記研修会を鹿児島県(予定)、鹿児島緩和ケア・ネットワークの共催を得て主催することになりました。本研修会は、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成20年4月1日健発0401016号)に基づき実施するものです。平成21年1月11日(日)、

12日(月・祝日)にかごしま県民交流センターで開催します。全日程の修了者には、研修会主催責任者と厚生労働省健康局長両名の記名捺印された「修了証」を交付する予定です(現在申請中)。

詳しい内容、参加についてのお問い合わせは、鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科 松崎 勉 (matsu@kagomc2.hosp.go.jp)までお願いします。

第2回 公開講座

暮らしの中での私の体とのお付き合い～いきいき健康体操～

さわやかな秋晴れの日、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校に地域の方々を招いて公開講座を開催しました。今回は65歳以上の方を対象に、30名の参加があり80歳以上の方が6名参加され地域の方のお元気に教員のほうも驚かされました。

高齢化社会が叫ばれ、健康についての取り組みがさまざまな場所で行なわれていますが、看護学校でも少しでも地域の方に何か貢献ができればと思いますこの企画を考え、高齢者の方に自分の体についての講義と、毎日続けられる体操を実演しました。講義は、①年齢を重ねることによる体の変化、②体を守る4つの力、③体を動かすことの効果、④元気に過ごすためのポイントについての4つの内容で実施しました、参加された地域の方の健康に対する意識は高く、満足できる内容であるか心配をしていましたが、みなさん熱心に聞かれており時々肯いてくださる姿にホッとしながら講義を進めました。

その後に教員とともに実演に移り、毎日続けられること、体操中にケガをしないこと、自分の体力にあったものをポイントに「足の体操」、「よい姿勢を保つ体操」、「筋力を維持する体操」を行い、最後に「朝の体ならし体操」を実施しました。

高齢者による転倒は、その後に寝たきりになることが多く、そのことを防止するためには足の筋力の維持・低下防止と体のバランスが大事です。運動をしている人の疾患の罹患率や疾患からの回復率は、運動をしていない人と比べ差が見られているという点からも、日頃から効果的に体を動かすことは重要です。激しい運動や道具を使ったり場所を選んだりするような体操ではなく、毎日続けられなおかつ筋力を維持・増進するような体操を取り入れて、寝たきり防止や疾病からの回復に繋がればと思います、今回の健康体操の内容を選びました。

体操を指導した教員の楽しい会話に時折笑い声も聞かれながら、軽く汗をかき和やかに時間が過ぎていきました。気づいてみると一緒に行っている教員のほうが少々バテ気味であり、あらためて地域の方々の元気のよさを痛感しました。参加者の中には「膝が悪くてできないと思っていたけど、これなら出来そう」や「今日は来て良かった」「この時間は家にいてテレビを見ているだけだったが、出るきっかけとなった」などの声を聞き、体操の効果だけでなく、外出の機会を増やしそのことが心身の健康に繋がるのではないかと感じました。私たちよりもはるかに長く人生を経験されている方から「ありがとう」という言葉を頂きましたが、鹿児島看護学校の発展が多くのみなさんの協力の下で成り立っているのだということも感じ、地域の方にとっても感謝しています。これからもこのような機会をつくり地域の方との交流を深めていきたいと思いました。

これから日増しに肌寒くなりますが、皆さまもどうぞ地域の方に負けないように健康のために毎日少しずつ体操をしてみませんか。

(看護学校 教員 江藤千晴)



お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
 脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

（地域医療連携室）濱田、大渡、平田、中島、田添、吉留、善福
 直通電話 ▶▶ 099-223-4425
 フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

